



お江戸松愛

2022年9月 第73号

松愛会 東京都支部
発行人 志村 孝子
編集人 加藤 修

パナソニック松愛会 東京都支部 支部報 <http://www.shoai.ne.jp/tokyo/>

2022年7月31日現在 支部会員数 784名

松下経営理念実践伝道師として全国を駆け巡る 古望高芳会員の活動をご紹介します

(こもうたかよし)

で人材育成教育を進めてきました。

特に中小企業の事業主の方々から、先の見えない不透明で不安な時代に何を手掛かりに経営を進めたらよいかという切実な声が多く寄せられ、その一つ一つに寄り添いつつ対応してきました。社会の公器としての企業の使命、人を大切にする人材育成の基本を繰り返し語り伝える毎日となっています。

「理念と実践にハシゴを架ける、そして伴走する。一緒に走り、悩みを聞き、解決する。それが私の仕事です。」と古望さんは語ります。松下電器の現役時代に数々の苦境にぶつかり、幸之助理念を反芻し、苦境を乗り越えた日々の経験が生かされています。

先般、オートモーティブシステムズ(株)で古望さんがアレンジし、昨年100歳になられた新屋客員に経営理念について2時間に亘って語っていただく機会を設けました。幸之助創業者から直に教えを受けた大先輩の語り



中央が新屋客員、左側が古望さん

役社員は大きな感銘と薫陶を受けたといいます。

「語るべき思い」と「場」を求めこれからも一步一步進んでいきたいと古望さんは篤く語ってくれました。

(レポーター:佐藤 文昭)



研修後の集合社員(後列中央が古望さん)

本年11月にパナソニック松愛会は50周年を迎えます。会の発足は、退職者の懸命な努力とともに、労働組合と松下幸之助創業者の絶大な支援があってこそのものであります。この松下幸之助の経営理念を語り伝道しているのが古望高芳さんです。古望さんの入社動機は松下の経営理念を体得し、実践し広めたいという強い思いが背景にありました。

配属以来、一貫して自動車機器関連の仕事一筋。主にトヨタを担当し、トヨタ理念が現場に根付いていることを学んだといいます。コストダウン(以下C.D.)ができた時でもそれでよしとせず、何故かを繰り返す「探索性」と「合理性」。C.D.分を両社で分け合う「共存共栄」。一人が一万歩進むのではなく、一万人で一歩進む「組織性」。「松下経営理念とトヨタ理念を日々照らし合わせて考える毎日でした。」と振り返ります。

松下電器が未曾有の苦境に陥り構造改革とリストラを乗り越えた2009年に、社員研修所で「経営理念実践伝道師」の資格を取得、人事部門と連携し、人を大切にする経営理念の基本研修を進めることができました。

松下卒業後、中小企業診断士の資格を基に企業風土の活性化などコンサルティング活動や各種教育機関や企業

支部だより (みちくさ会のご報告)

第155回 「葛飾水元公園散策」のご報告



・とき: 6月11日(土)
・コース: JR金町駅→南蔵院→松浦の梵鐘→葛飾水元公園
梅雨の晴れ間の土曜日、会員19名が参加し、東京の花

菖蒲の名所・葛飾水元公園を目指して、金町駅をスタート。大岡裁きの「しばられ地蔵」で有名な南蔵院で記念撮影。松浦の梵鐘から水元公園へ入る土手に登ると色とりどりの紫陽花が出迎えてくれました。水元公園は東京23区内で最大の公園で花菖蒲は約100種、14,000株が植えられており、園内のあちらこちらで今を盛りに咲き誇っていました。

当日は「葛飾菖蒲まつり」の期間中ということで、屋台等も出て大いに賑わっていました。ブルーの水元大橋を渡り、ポプラ並木周辺でお弁当タイム、その後新緑のメタセコイア(生きている化石)の森で記念撮影、20メートルを超える巨木に圧倒されました。

中央広場、バーベキュー広場を通りながら「かわせみの里」で自然観察。雨に合うことなく広大な水元公園散策を堪能致しました。

走行歩数: 8500歩。

